

<b>研究課題名 (研究期間)</b>	<b>PM<sub>2.5</sub> 汚染の低減のための成分測定と発生源の推定 (H23～H25)</b>	
<b>研究の概要</b>		
<p><b>研究ニーズ等課題化の背景</b></p> <p>大気中微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)は、人の呼吸器系や循環器系に様々な健康影響を及ぼすことが知られており、我が国でも平成 21 年 9 月に大気環境基準が告示された。環境省等が実施した PM<sub>2.5</sub> 質量濃度の測定結果では、国内の多くの地域で大気環境基準の達成が困難な状況であり、PM<sub>2.5</sub> の低減に向けた新たな取り組みが求められている。</p> <p>PM<sub>2.5</sub> の低減対策を考える上では、その成分組成や高濃度要因を明らかにすると共に、発生源に関する情報を得ることが重要である。これまでの研究で PM<sub>2.5</sub> 濃度の減少に自動車排ガス低減対策が有効に寄与したことを明らかにしたが、さらに PM<sub>2.5</sub> 濃度を減少させるためには自動車以外の発生源に着目した対策が必要である。</p> <p>しかし、我が国の PM<sub>2.5</sub> の発生源に関する情報は乏しく、新たな対策を考える上で支障となっている。</p> <p>このため、地域の実情に応じた PM<sub>2.5</sub> の低減対策を展開するためには、県内の複数の環境条件下で PM<sub>2.5</sub> の観測を行い、成分組成や発生源情報を把握する必要がある。</p>	<p>第 3 次県環境基本計画の該当項目 第 4 章 地域環境負荷の低減 1 地域的な環境問題の解決</p> <p>県関連施策名等 大気汚染常時監視 ディーゼル自動車等 運行規制</p>	
<p><b>目 的</b></p> <p>PM<sub>2.5</sub> の高濃度要因を明らかにすると共に、主要な発生源とその寄与割合を推定する。</p>		
<p><b>内 容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 県内の環境条件が異なる複数の地点で PM<sub>2.5</sub> の並行観測を行う。観測は季節変動を考慮して実施し、質量濃度と主要成分（イオン成分、炭素成分、無機元素成分等）の分析を行う。</li> <li>2 得られた結果と、既に PM<sub>2.5</sub> の観測を実施している姫路市の測定結果、および観測地点周辺の大気汚染常時監視局で得られた大気汚染物質や気象要素の測定結果を総括的に解析し、県内の異なる地域における PM<sub>2.5</sub> の高濃度要因を考察する。</li> <li>3 成分濃度の測定結果に統計解析（多変量解析）手法を適用して PM<sub>2.5</sub> の主要な発生源とその寄与割合を推定する。</li> </ol>		